

1998年(平成10年)6月1日(月曜日) (毎月1回1日発行)

友 情

友情

発行者 アジア人協会
日韓人協会
発行所 友 情 社

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-29-9
めぐみハイマンション 602
電話 03-3409-1203
振替口座 00130-7-656495
定価 一部300円(本体286円)
年間購読4000円(郵送料込)
© 友情社 1998

東アジア共栄考える 名越、清水、鄭三氏が講演

「岡山」日韓時局講演会
「日本の使命と東アジアの
共栄を考える」が五月四日、
岡山ふれあいセンターで開
催され、約二百名が集った。
講演者は、高千穂商科大学
前教授の名越一龍之助氏と
千葉大学名誉教授の清水馨
八郎氏、アジア人協会理事
長の鄭時東氏の三人。名越
氏の演題は「日韓二千年の
真実ハイライト」、清水氏
は「日韓トンネルの意義と
東アジアの将来」、鄭氏は

「日韓新時代とアジアの夜
明け」であった。主催は、
東亜ヒューマン・ネットワ
ーク。協力は、アジア人協
会岡山支部、東亜共栄会、
東亜ヒューマン・ネット
ワーク代表世話人で同大会
発起人でもある向井義成氏
は、司会を務めたが、韓国
の民族衣装バジ・チョゴリ
を着て登場、開会の辞を述
べた。

日本と韓国の国歌斉唱の
後、日韓を代表する愛国



大会後の万歳三唱

憂国の歌「先駆者」と「青
年日本の歌」が披露された。
次に、国際ハイウェイを
紹介するスライド「ユーラ

シア大陸 万キロの旅」が
上映された。祝電は、衆院
議員山田隆一氏、参院議員山
虎之助氏、岡山県議森正大
氏らから寄せられた。
つづいて、三氏による講
演が始まった。名越氏は、
著書「日韓二〇〇年の真
実」(株式会社国際企画

からのスライドを用いて講
演。「今、韓国は日本を誤
解している。そして、日本
は韓国を知らない」と話し、
日韓相互の歴史的関係の深
さを説明、相互理解の必要
性を訴えた。そして、「日
本人は日本人として愛国者
であれ。そして、韓国の立
場も理解しよう。そこに魂
と魂のふれあいが生じる」
とまとめた。

清水氏は、日本の敗戦の
時、「国破れて山河あり」
と富士山を見て思った経験
を話し、「日本は敗戦で四
つの島に押し込まれ、四島
(等)国になってしまった。
しかし、その島々を結ぶ青
函トンネルや瀬戸大橋が十
年前に開通し、文字通り一
島(等)国になった。この
世界一のトンネルと橋の技
術を生かして、今度は大陸

とつながるときだ」と話し
た。そして、日韓トンネル
は地質調査が全て終わり、
政治段階だけ残っているこ
とを紹介、「大きな経済効
果もあり、日韓も『近くて
近い国』になる」とその事
業推進を訴えた。

最後の鄭氏は、在日韓国
人二世としての立場から、
日本人にも韓国人にも見え
にくい観点から日韓関係を
語った。「日帝三十六年の
真実はどこにあるかは難し
い。被害者の韓国が加害者
の日本を責めるのは、韓国
にとつて一時的慰めにはな
っても根本的解決にはなら
ない。まず、自分自身の反
省に立たないといけない。
また、日本も日本から見た
アジアではなく、世界から
見たアジアを見るべきだ」と
と観点転換の必要性を話し
た。

質疑応答の後、名越氏が
総括し、倉敷市議の岡健太
郎氏の閉会の辞の後、日本
会議岡山運営委員長の浅野
富男氏による万歳三唱で感
動のうちに閉会した。